

松原遺跡

市道松原2号線道路新設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2014年6月

島根県浜田市教育委員会

序

浜田市教育委員会では、市道松原2号線道路新設工事に伴い、平成25年度に三隅町岡見に所在する松原遺跡の発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、溝状遺構とともに古墳時代前期の多くの土器が出土しました。これらの土器の中には、山陰地方でよく見られるものに加え、周防地域の影響が考えられるものもあり、当該期における文化交流の一端を示しています。

本書はこれらの調査結果と浜田市の遺跡を末長く後世に伝え、学校教育や生涯学習など広く活用するための基礎資料としてまとめたものです。この資料が幅広く活用されることにより、文化財保護思想の普及、地域史研究への一助となることを願っております。

おわりに、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、ご協力いただきました浜田市三隅支所建設課をはじめ、地元の方々並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成26年6月

浜田市教育委員会

教育長 石 本 一 夫

例　　言

1. 本書は浜田市教育委員会が浜田市三隅支所建設課の協力を受けて実施した市道松原2号線道路新設工事に伴う松原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は以下の組織で行った。

調査主体	浜田市教育委員会教育長 石本一夫
調査員	榎原博英（浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係 主任主事） 藤田大輔（浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係 主事）
事務局	浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係 文化振興課長 岡本好明・文化財係長 川本裕司
3. 調査にあたり協力および従事していただいた方々は次のとおりである。

坪倉ひとみ、永田邦宏、中田貴子、山本英明
4. 出土遺物、実測図及び写真は浜田市教育委員会に保管してある。
5. 本書の執筆編集は藤田が行った。

本　文　目　次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第1節 遺跡の位置	
第2節 歴史的環境	
第3章 調査の結果	3
第1節 調査の概要	
第2節 検出遺構	
第3節 出土遺物	
第4章 総　括	4

挿　図　目　次

第1図 松原遺跡の位置と周辺の遺跡
第2図 松原遺跡調査位置
第3図 松原遺跡調査平面図・土層図
第4図 松原遺跡出土遺物実測図

第1章 調査に至る経緯と経過

平成23年10月、浜田市三隅支所建設課から浜田市教育委員会に対して、市道松原2号線道路新設工事に関する文化財等の有無及び取り扱いについて協議書の提出があった。該当地には周知の埋蔵文化財包蔵地である松原遺跡が所在しており、同年11月の分布調査においても、土器片が表採されるなど遺跡の存在が確認され、三隅支所建設課に対して遺跡の取り扱いについて引き続き協議が必要である旨の回答を行った。

以後、浜田市三隅支所建設課と適宜協議を行い、平成25年6・7月に平成25年度国庫補助事業市内遺跡発掘調査の一環として、浜田市教育委員会が松原遺跡の確認調査を実施し、工事予定地内中央部において遺物包含層が確認された。

確認調査の結果を受けて、工事予定地内の埋蔵文化財の調査についての検討を行い、三隅支所建設課から平成25年11月25日付、三建第450号で文化財保護法第94条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の通知が島根県教育委員会教育長あてに提出された。これに対して、平成25年11月25日付、教文財第15号の52で、島根県教育委員会教育長から発掘調査の実施の勧告がなされた。

その後、浜田市教育委員会は三隅支所建設課から埋蔵文化財発掘調査の依頼を受け、平成25年12月18日付、教文第582号で文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の通知を島根県教育委員会教育長あてに提出し、発掘調査の実施に至った。

調査は平成25年12月18日より開始し、平成26年1月15日に完了した。

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置

浜田市は石見地方と呼ばれる島根県西部地域のほぼ中央に位置する。この地域は概して丘陵部が海に迫り、大きな沖積地に恵まれていない。

松原遺跡が所在する三隅町岡見松原は、浜田市西部にあたる日本海に面する沿岸部であり、そのすぐ南には山が迫っている。遺跡は日本海に注ぐ岡見川河口部右岸に立地し、県道益田種三隅線に沿って展開する松原集落南の畠地に所在している。岡見川の古流路によるが、立地として後背湿地か自然堤防上が考えられる。

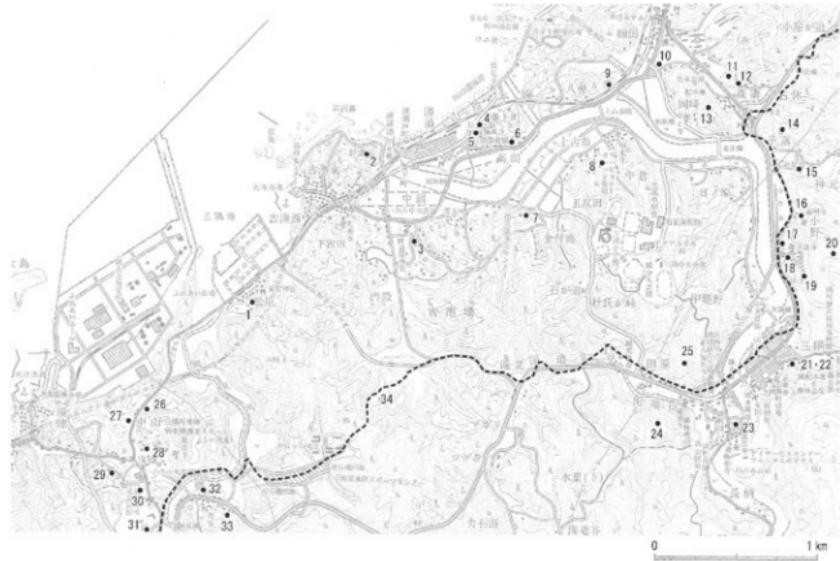
第2節 歴史的環境

周辺では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古代の遺跡は見つかっていない。

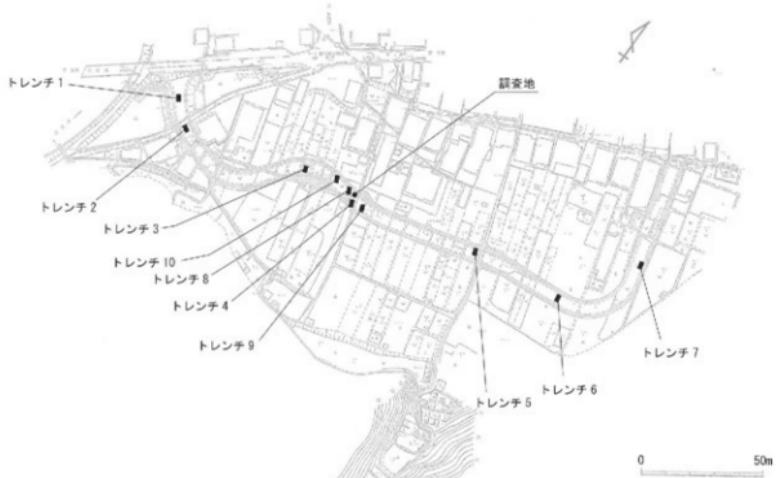
前期・中期古墳は確認されていないが、古墳時代後期には岡見青浦に青浦古墳が築造される。青浦古墳は日本海に面した標高約25mの低丘陵北斜面に立地するが、墳丘、横穴式石室とも大部分が破壊されており、遺物は確認されない。横穴墓は湊浦高田に高田横穴群(6)、三隅に刈立横穴(12)が所在する。同じ三隅川水系ではあるが、前者の玄室平面形は長胴形、後者はほぼ正方形を呈し、形態に違いが見られる。

中世には、国人領主三隅氏の拠点として、高城跡が高城山に築かれる。その出城と考えらえる山城が三隅川に沿う形で点在し、河口部左岸の古市場古湊の針瀬城跡(2)、古市場の小金町城跡(3)、西河内の風呂ノ木砦跡(9)などが知られている。

近世には、石見焼窯跡の齊藤窯跡(26)、山岡窯跡(27)、製鉄遺跡の中山鉛跡(31)などが所在している。



第1図 松原遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/30,000)



第2図 松原遺跡 調査位置 (1/2,000)

第3章 調査の結果

第1節 調査の概要

平成25年6・7月に確認調査（トレンチ1～10）を実施し、遺物包含層が確認されたトレンチ4・8周辺の31mについて本調査を実施した。

層序は地表から黒色土（表土）・小礫混褐色土・黒色砂・黄褐色砂の順に堆積している。黒色砂が遺物包含層にあたり、古墳時代前期の土器が調査区中央部を中心に出土した。その他の遺物としては、縄文土器・弥生土器が数点出土したのみで、須恵器は出土していない。遺物は総量でコンテナ2箱分出土した。なお最下層の黄褐色砂は、南東方向に傾斜している。

遺構は、北東-南西方向の溝1基が調査区中央において検出された。

第2節 検出遺構（第3図）

調査区中央から北東-南西方向の溝1基を検出した。上幅1.4～2.0m、下幅0.3m、検出長4.5mを測る。溝の東側には0.2～0.4mの平坦面が確認でき、2段状を呈するが、西側においては明確な平坦面は確認できなかった。溝の堆土は下層に暗黄褐色砂、上層に黒色砂が堆積する。堆土と遺物包含層である黒色砂の分層はできない状況にあり、明確な遺構検出手法は確認できなかった。暗黄褐色砂層からは古墳時代前期の土器が出土し、この頃まで機能を終えたことが推定できる。

なお、上層中にラミナは観察されず、恒常に水が流れている様子はうかがえない。

第3節 出土遺物（第4図1～21）

溝SD01 出土遺物（1～5）

1・2は単純口縁の壺で、白色の胎土をしている。1は口縁端部に面をもち、外面はハケメ、内面はケズリ調整を施す。2は口縁部がやや内湾気味となり、口縁端部は丸くおさめている。3は壺の体部片。内面はケズリ、外面は粗いハケメ調整である。赤褐色の胎土をしている。4・5は高杯で赤褐色の胎土を呈す。4は器壁が厚い。5は杯部内面に放射状のミガキを施す。

包含層出土遺物（6～21）

6・7は縄文土器。6は口縁端部に1条の弦線を入れた鉢。縁帶文土器か。

8～10は弥生土器。8は頭部に横ミガキにより段を作出しているが、9は口縁部に縱ミガキを施し、頭部ははっきりしない。ともに弥生時代前期の土器である。

11～21は古墳時代前期の土器。11～13は山陰地方で普遍的にみられる複合口縁の壺で、白色系の胎土である。13の口縁部は直立気味に立ち上がり、広い端面をもち、11・12よりも新しい要素をもっている。

14・15は布留系の壺で、胎土は赤褐色を呈する。14は口縁部が内湾し、端部を内側に肥厚させる。胴部外面は横ハケメ、内面はケズリ調整を行う。15の口縁部は直線的ではあるが、端部を内側にやや肥厚させている。

16～18は単純口縁の壺で、胎土は赤褐色を呈する。口縁部は上記までの壺と比べて、器壁が厚く短い。18は単純口縁壺の体部と考えられ、器壁が厚い。内面は工具などによる条痕とナデ調整が見られる。強くナデついているためか、胎土が伸ばされている状況がみえる。外面には明確な調整痕は確認できない。

19は直口壺か。口縁部は直線的に開き、端部を玉縁状に丸くおさめる。内面は風化のため不明瞭だがハケメが確認できる。なお内面に黒色の付着物が見られるが、漆か煤かは不明である。外面には細かいミガキを施す。破片の状態からは肩部のあまり張らない形状が想定される。赤褐色系の胎土を呈する。

20・21は高杯。20は杯部片で、半球形の椀形を呈する。内面下位はケズリ、上位はハケメのち不定方

向のナデが見られる。外面は風化のため不明瞭だが、下位にミガキ調整が確認できる。赤褐色系の胎土である。21は脚部片で、縱方向のミガキを施す。白色系の胎土である。

第4章 総括

調査区からは北東～南西方向の溝が1基検出された。溝の東西に遺構が検出されなかつたこともあり、溝の性格について明言できない。ただ、埋土には有機物等も検出されない均質な砂が堆積し、ラミナも観察されないことから流水状態とは考えにくく、何かしらの区画の意図はうかがうことができる。

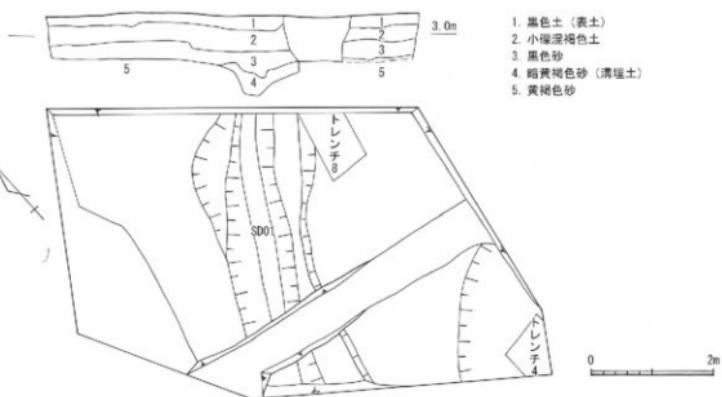
遺物としては古墳時代前期の土器が一定量出土した。これらの土器は、平底の底部片が確認されず多くの壺が丸底を呈すると考えられることや須恵器の出土がないことから布留式土器成立以後のある程度時期の限られた遺物群と評価できる。また、胎土には白色系と赤褐色系の2種が見られ、山陰地域に普遍的に見られる複合口縁甕などは白色系の胎土、布留系甕や単純口縁甕などは赤褐色系の胎土を呈する。ただ、溝の埋土や包含層からの出土であることを踏まえると、色調の違いを製作地の差異によるものと断定はできない状況にある。

なお、単純口縁甕は山口県の周防地域で特徴的にみられ、島根県吉賀町など島根県南西部の中国山地においても主体をなしている。日本海側では益田市で出土が確認されており、今回の松原遺跡においても量的には少ないが確認されたことは、周防地域の土器の影響が日本海沿岸まで及んでいたことを想起させる。

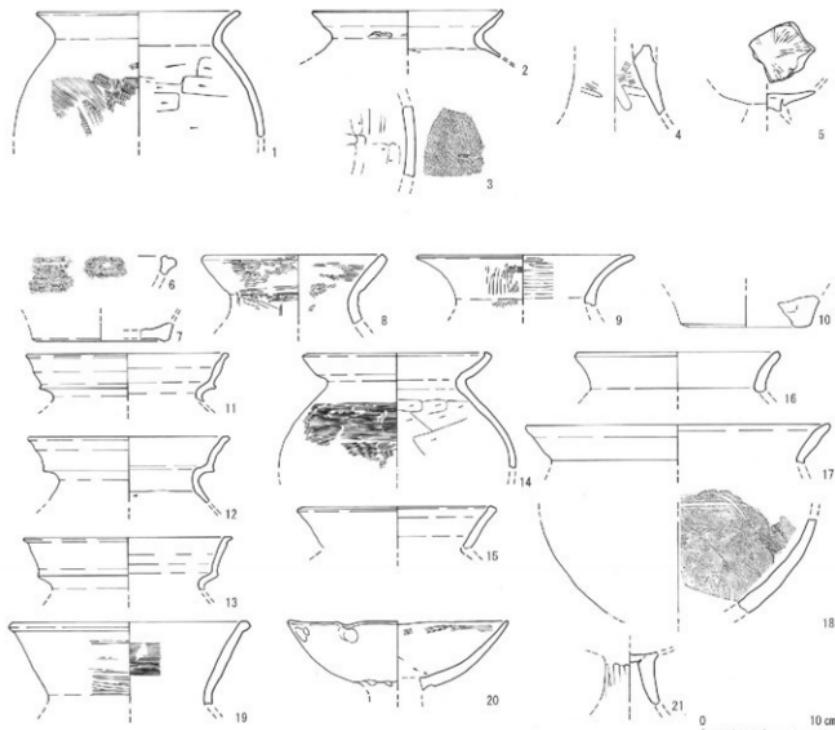
最後に、多くの遺物が出土した黒色砂層からは植物の腐食痕などは確認されなかつたが、いわゆる「クロスナ層」と考えられる。同じ日本海側に面する江津市の波子遺跡において、上下2層に分かれる下方クロスナ層の上層から松原遺跡とはほぼ同時期の土器が出土している。当該期には全国的な砂丘の定期期があったとされ、今回の調査においてもそれを追認する結果が得られた。

【参考文献】

- 井関弘太郎1975『砂丘形成分類のためのインデックス』『第四紀研究』第14巻第4号
- 速藤邦彦1969『日本における沖積世の砂丘の形成について』『地理学評論』42-3
- 江津市教育委員会・浜田市教育委員会1988『大平山遺跡群開発報告書』
- 島根県教育委員会1980『中国越前自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 島根県教育委員会2010『久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西Ⅰ遺跡・久城西Ⅱ遺跡・原浜遺跡』
- 島根県教育委員会2011『曾ノ上遺跡』
- 田畠直彦2012『周防西部・東部における弥生時代後期から古墳時代初頭の上器編年』
- 『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』山口大学埋蔵文化財資料館
- 津和野町教育委員会2010『大陰遺跡』
- 浜田市教育委員会・江津市教育委員会1989『大平山遺跡群発掘調査概報』
- 浜田市教育委員会2011『島根県浜田市遺跡地図Ⅲ（二階自治区）・史跡 石見国分寺跡』
- 松山智弘2000『小谷式再検討－出雲平野における新資料から－』『島根考古学会誌』第17集
- 六日市町教育委員会2000『沖場遺跡』



第3図 松原遺跡 調査平面図・土層図



第4図 松原遺跡 出土遺物 実測図



調査地遠景（南東より）



遺物出土状況（南より）



北面土層



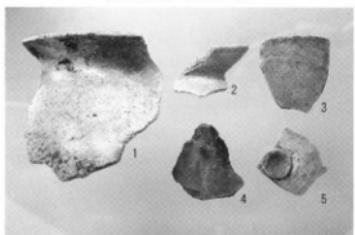
SD01（南より）



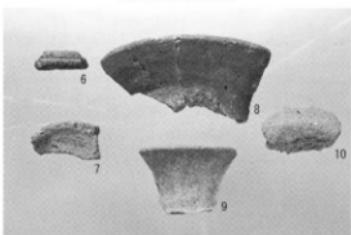
完掘状況（西より）



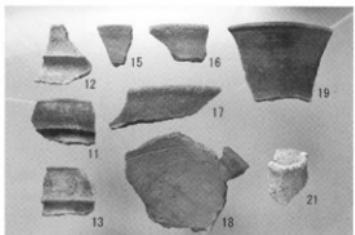
SD01（南より）



SD01 出土遺物



包含層出土遺物 1



包含層出土遺物 2



包含層出土遺物 3

報告書抄録

ふりがな	まつばらいせき					
著 名	松原遺跡					
副 書 名	市道松原2号線道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻 次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編 著 者 名	藤田 大輔					
編 集 機 関	鳥取県浜田市教育委員会					
所 在 地	〒697-8501 鳥取県浜田市殿町1番地 TEL 0855-25-9731 bunka@city.hamada.shimane.jp					
発行年月日	2014年6月					
ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北 . . 緯 34° 46' 46"	東 . . 経 131° 55' 42"	測査期間 2013/12/18 ~ 2014/01/15	調査面積 31m ²
松原遺跡	鳥取県浜田市 二刻町同見	32202 073				市道松原2号線 道路新設工事に 伴う発掘調査
所取遺跡名	種 別	主な時代		主な遺物		特記事項
松原遺跡	集落	古墳時代	漢	縄文土器・弥生土器・ 土師器		古墳前期の土器が 一定量出土した。
要 約	<p>松原遺跡からは北東 - 南西方向の溝が1基検出され、何かしらの区画の意図が推察される。また遺物包含層である黒色砂は「クロスナ層」と推定され、出土遺物の時期から見ても、全国的な砂丘の安定期に形成されていたものである。</p> <p>古墳時代前期の土器の中には、山陰地方で普遍的にみられる複合口縁の土器のほか、布袋系土器及び周防地域で見られる単純口縁の壺が確認された。単純口縁の壺は鳥取県吉賀町など鳥取県南西部の中国山地において主体となし、日本海側の益田平野においても一定量確認されている。松原遺跡でも確認されたことは、周防地域の土器の分布を考えるうえでも重要な成果といえる。</p>					

松原遺跡

市道松原2号線道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 烏根県浜田市教育委員会 2014年6月

烏根県浜田市殿町1番地

印刷 有限会社 原印刷
